

令和5年度 第1回三条市食育推進及び農業振興審議会会議録（概要）

1 日 時 令和5年12月26日（火） 午後1時30分から午後2時55分まで

2 会 場 三条市役所 2階 大会議室

3 議 題

- (1) 会長の選出
- (2) 副会長の選出
- (3) 第3次三条市食育の推進と農業の振興に関する計画骨子案について

4 出席状況

(1) 出席委員

栗生田会長、落合副会長、岩淵委員、山内委員、小林委員、星野委員、伊藤委員、佐久間委員、須佐委員、宮島委員、佐藤委員

(2) 欠席委員

栗原委員、山寄委員、田代委員

(3) 事務局職員

村上福祉保健部長

片野経済部長

健康づくり課 小林課長、梨本室長、大泉主査、小林主任、小柳主任

農林課 藤家課長、目黒課長補佐、佐藤係長

(4) 報道機関 なし

5 内 容

(1) 開会

(2) あいさつ 村上福祉保健部長

(3) 委員等の紹介

(4) 議 題

ア 会長に栗生田委員を選出

イ 副会長に落合委員を選出

ウ 第3次三条市食育の推進と農業の振興に関する計画骨子案について（資料No.1の食育部分を大泉主査、農業部分を目黒課長補佐が説明）

質疑等

小林委員	総合計画が三条市の最上位計画とあるが、本計画は条例に基づいて策定されたものだと思う。総合計画に記述されていないものについては触れられないという認識をしなくてはいけないのか確認したい。第3次の計画は条例に基づい
------	--

藤家農林課長	<p>て策定されるものだと考えると、総合計画が最上位計画ということは認識しているが、あまり総合計画に引っ張られてしまうと独自性も発生しないと思う。</p> <p>農業分野については、総合計画に全ての施策が載っている訳ではなく、例えば今回の計画の中にある「地産地消の推進」は総合計画に記載されているものではない。総合計画に記載されているもの以外は載せてはいけないという認識はしていない。</p>
小林健康づくり課長	<p>総合計画の中の健康分野については、「健康で心豊かに暮らせるまちづくり」ということで大きな目標を掲げている。また、計画は6年間という期間のため、大きな目標を達成するために食育の推進と農業の振興に関する条例を加味しながら、どういった方法がいいのかを皆様方の御意見を聞き、議論しながら各種取組を行っていくものと捉えている。</p>
小林委員	<p>確認させていただいたことは、方向性ということによろしいですね。</p> <p>次に中身について、資料P4の国が示す第4次食育推進基本計画の中で「貧困等の状況にある子供に対する食育の推進」という一項があるが、三条市の計画の骨子案には子どもたちの貧困の部分について何一つ記載がない。恐らく顕在化されていないということが一つの要因だと思うが、私たちが知り得ないようなところで潜在的に起こっていることだと思う。貧困という定義が難しければ、ネグレクトや子どもたちに対する栄養やカロリーの部分で、十分に食育を推進できないような子どもたちが三条市にもいるのではないかという視点を盛り込む必要があるのではないか。国は地方公共団体はその推進に努めると記しているので、これはぜひとも入れていただきたい。貧困の定義が難しければ、それに類するような形の記述は出来ると思うのでぜひとも御検討いただきたい。</p>
大泉主査	<p>資料P4の「貧困等の状況にある子供に対する食育の推進」について、市としても保育所や学校での個別相談の中で、ごはんにふりかけだけの食事が続いたり、子どもが自分で食事を用意していたりなどの状況がみられている。また、保護者においても極端に食に関する知識が少ない状況の方もいる。恐らく、子どもが適切な食事をとれない背景には貧困やネグレクトなど、様々な背景があると考えている。そういった背景に合わせた、相手に寄り添った栄養改善の取組ができるように関係課と連携して進めていきたい。そういった意味を込めた本文の作成を検討していく。</p>
栗生田会長	<p>資料P5 スマート農業に関して、スマート農業の振興の法制化やほ場の大区画化などが載っており、国の施策にはなるが、三条市としてどこまで具現化を考えているのか。現在検討していることがあれば教えて欲しい。</p>

藤家農林課長	<p>現時点では、三条市で独自の施策は持っていない。経営規模拡大や効率化となった時には、農業機械等の導入は有効だと考えている。そういった規模拡大の際に導入する農業機械等の補助金審査の際に加点するといった形でインセンティブを与える様な施策は持っているが、これに特化してというものはない。導入コストが高かったり、活用できる農業者が限られていたりするのが現実と考えているため、今のところはそういった推進の仕方になる。</p>
粟生田会長	<p>農業 DX やスマート農業といったものは、お題目としてはすごく美しいが、現実問題、先ほど資料の P17 でも説明があった下田地域の 1 ha 未満の農地が 4 割を超えるであるとか、ルレクチエの作付面積にもあったように、規模拡大すればいいというものではない。地域の実情に応じて、農家の理解や収益性であるとか深い分析の上に施策を作っていくことが必要になると思う。三条市独自の施策を期待したい。</p>
星野委員	<p>農業の新規参入に関して、現実的には地主でない方の参入は難しい状況と感じている。私も果樹農家の近くに住んでいるが、ほとんどの方が地主か親の後を継いでいる方である。外部からの新規参入で収益を上げるような経営体を作るのは非常に難しいと感じている。これに関しては専門家ではないので具体的な提案はできないが、三条市として新規参入の方に何らかのフォローを期待したい。</p>
藤家農林課長	<p>果樹農業の後継者育成や新規参入は特に難しいと実感している。その中で、新潟県と J A、関係市町村が果樹産地としての意識拡大をどのように行っていくかという会議を常に行っている。今現在、耕作放棄地がどこにどのくらいあるのかや、高齢になった経営者が今後どうしていきたいのかという意向が見える化していこうという動きがある。例えば他から果樹農業をやりたいといった方が来た時に、受入態勢としてどういった組織があって、どういう農地が用意できるかをシステム化していくかが課題と考え、それに向けて少しずつ取り組んでいる。</p>
小林委員	<p>資料 P15 に関わる話で、消費者も積極的に農業を支えていくという意識を持つことが重要なことはもちろんであるが、現在、食料安全保障とか世界的な食糧危機とか地球規模のグローバルな話が随分出ている。私たちもそれを見る機会があるが、農業者は食糧を生産する立場である。今年も暑くて、米の不作等で相当な補助も出したと思うが、それが来年、再来年と気候変動により続くことが考えられる。農業者が食糧生産者という立場で私たちに情報発信し、学習の機会を与えていただくことは大変重要なことだと思っている。農業体験だけでなく、食糧生産者としての農業の位置付けを農業者が持っている情報を共</p>

	<p>有して、私たちも一緒に考えて行動することで出来ると思うが、今は一方的なところで止まっている。農業者に食糧生産者という意識を持ってもらうようにそのことに触れてもらいたい。私たち消費者に対してそういう位置付けを記述していただいて、ぜひとも一緒にやれるような状況を作っていただきたい。その辺りの記述を必ずお願いしたい。</p>
藤家農林課長	<p>農業の抱える問題は非常に多様化してきている。どこから解決するのかというくらい難しい状況になってきている。そうした中で、三条市としてまずどこに一番力を入れていくべきかという部分に関しては、農業所得の改善に向けて市が支援するのが一番大事と考えている。その中で、意見をいただいた農業者と消費者相互理解を併せてやっていく。限られた財源と資源の中でどこを重点的にやるかという部分は考えていかなければいけないことだと思っている。いただいた意見はどういった形で反映できるか考えていきたい。</p>
小林委員	<p>意識改革を望んでの提案である。農業者というよりも食糧生産者としての位置付けを農業者に意識付けしていただきたいということ。農業が大変なことはここに集まった皆さんはよく理解している。今季の様なことになると、来年はどうかという思いでいるということを共有したい。農業という枠に留まらず、食糧の生産者という位置付けを、ぜひとも農家の皆さんにも意識して欲しい。</p>
藤家農林課長	<p>現在、農業者の方が食糧生産者としての意識を持っているかということは、実態を把握していない部分もある。三条市の農家の9割が稲作農家でその8～9割が兼業農家である。稲作は今までほとんどが国策でやってきた。意識改革は簡単にはいかないかと思うが、経営者であり生産者であるというのは大切だと思う。そういった視点は忘れずに進めていきたい。</p>
栗生田会長	<p>この課題に関しては、消費者と生産者という立場ではなく、お互い生活者という立場で一緒に考えていこうというのがこのテーブルの趣旨のため、誰がいいとか悪いとか、誰かがやっっていかなければ困るではなく、一緒に考えていくという立場で議論していくのが良いと思う。</p>
岩渕委員	<p>塩分のパンフレットについて、非常によくできていると思うが、全部で何部くらい刷られてどういうところに設置したり配布したりしているのか。</p>
大泉主査	<p>今年度4,000枚印刷して、三条市の集団健診会場において栄養士の啓発と併せた配布や、10か月児の健康相談会や保育所や学校での食育活動等の中で配布を行っている。</p>
岩渕委員	<p>予算の関係もあると思うが、三条市のことが書いてあり、他の一般的なパン</p>

佐藤委員	<p>フレットよりも身近で良いと思う。4,000枚が多いのか少ないのか、もしかししたら少ないのかもしれないので、市民の人がもう少し目の届くところに置いていただけると良い。</p> <p>資料 P15 地産地消推進店の登録店舗が一つの成果指標となっているが、三条市でこの店舗として登録できるお店がどのくらいあるのかという母数が見えなくて、どれくらい登録されたら皆さんに周知ができていくのかが見えない。いち消費者、生活者として市内のお店に買い物に行ったりはするが、目にするのがなく、それが多いのかが分からない。</p> <p>もう一点は、資料 P3 の国の第 4 次食育推進基本計画の中に全国食育推進ネットワークの活用とあるが、会議の前にHP等も覗いてみたが、そのネットワークが何をやっていてどういうことに活用されるのかが見えてこない。当然三条市もそれを活用すべきものなのだろうとは思いますが、その辺りを教えていただきたい。</p>
目黒課長補佐	<p>地産地消推進店について、登録できる店舗の母数がどのくらいかということだが、企業体ということであればその数の合計を基にということではあるが、具体的要件を満たしている店舗がどのくらいあるかを、現実的に把握するのが難しい。これまで、数の目標値を設けて、一定程度増やすということとで取り組んできたものになる。当然、企業の経営が行き詰ったということであれば、辞められる店舗もあるため、現状ではその数を維持し、増やしていくという視点になろうかと捉えている。</p>
大泉主査	<p>全国食育推進ネットワークについては、国が作っているネットワークであり、最新の食育活動や知見を関係者間で情報共有するものである。同ネットワークから食育推進室に最新情報が届いたり、関係者がその中で異業種交流をしたり情報交流をするものと捉えている。</p>
栗生田会長	<p>資料 P8 の有機栽培米の作付面積が目標値を大分上回っている。有機栽培米を作ったのは良いが、販売先が無いというようなことにならないと良い。全国で有機の給食の推進をしましょうという運動が盛んに言われている。三条市というと、学校給食に美味しいものを提供するという歴史もあり、私が卒論で担当している学生は学校給食がすごく美味しかったという記憶を持っている。そういった意味でも、有機栽培米を今後どう利用していくのかという方向性があれば教えて欲しい。</p>
藤家農林課長	<p>有機栽培米だが、三条市では学校給食や保育所の給食でも取り入れて、私立の保育園にも斡旋している。栽培したけれども売れなかったらどうするのかという点に関しては、取り組む農業者は売り先というものを見据えて栽培してい</p>

	<p>るのが通例となっている。また、有機農業連絡協議会という組織があり、その中で情報交換をしている。市としては、栽培方法の研修会の実施や、下田地域の様な中山間地域で拡大が難しい地域に関しては、有機栽培米もしくは減農薬という特別栽培米をブランド化して推進する団体に支援するという取組を行っている。そういった自主的な取組を後押しするという形をとっている。国からの様々な支援策も出されているので、随時活用していくという考えである。</p>
粟生田会長	<p>有機栽培米の推進については、新規の環境保全ルートであったり、美味しい食材を求めて都会から人が来る。環境が回り、人が来て経済も回るといい好循環が生まれると思う。</p>
岩淵委員	<p>資料 P10 に栄養教諭という言葉が載っているが、三条市に栄養教諭の資格がある方はどのくらいいるのか。</p>
大泉主査	<p>市内の学校給食の調理場におおよそ一人ずつ配置されている。</p>
佐久間委員	<p>資料 P7 に指標評価ということで小中学生のアンケートも入っている。朝食欠食の割合は 0% を目指して頑張っていかなければと思っている。主食、主菜、副菜をそろえて食べている人の割合が、△の評価がついているが、子どもの実態を見ていると厳しいと思っている。先ほど、ごはんにふりかけという話もあったが、家庭状況が様々であり、なかなか忙しい親世代が朝食をしっかりそろえられないという実態もあると思う。子どもへの食育は一生懸命進めていただいているので、ぜひ親に向けた講演会や教室をやりたいというのが要望の一つである。また、アンケートは 3 食共にそろえた食事をとっているかどうかを聞いているのか、それとも朝食だけ、夕食だけなのかを教えてください。学校の体づくりの内容も、それに合わせて目標を立てて盛り上げて取り組んでいきたいと思うので教えてください。</p>
大泉主査	<p>今回の第 2 次計画の評価を受けて、子どもたちへの食育はもちろんだが、親世代への食育が必要だと感じている。資料 P10 の図 2 に示したように親世代が主食、主菜、副菜がそろえられない状況があるため、親世代への取組が必要と考えている。保護者に対する講演会もしかりであるが、保護者の勤め先があると思うので、そういった勤め先の企業と連携して、健康づくりの取組を推進していきたいと考えている。アンケートの項目であるが、平日の食事について聞いており、昼は学校給食があるため朝と夕の食事状況についての質問となっている。</p>
宮島委員	<p>資料 P14 の食環境整備に協力する企業等の店舗数が令和 3 年から 4 年にかけて増加幅が大きくなっているが、何か理由はあるのか。</p>

大泉主査	<p>令和3年から4年にかけて食環境整備に協力する企業等の店舗数が増えた要因としては、スーパーが増えたことがある。イオン三条店、リオン・ドールは市内4店舗あり、ウオロクは市内2店舗ありますのでそういった支店を持つスーパーから協力いただいたことで店舗数の増加につながったと考えている。</p>
栗生田会長	<p>食材のことに関係すると思うが、農業の高収益化のところで作り方によって農産物のミネラルのバランスが変わってくると聞いたことがある。例えば、有機農産物は価格が高いと理解されていると思うが、慣行栽培と比較すると有機栽培の方がミネラルのバランスが良いと思うと単純に価格だけでは比較できない。こういった情報を提供していくことで、農産物の流通の方法も変わってくると思うが、情報の流通は将来的にどうなっていくか。</p>
藤家農林課長	<p>有機農業の栽培の研修会の中で講師の方からも、有機栽培の方が慣行栽培よりも栄養成分が高いという情報はいただいている。ただ、それがどういう条件で栽培したらそうなるかという確立的なものがある訳ではないので、行政からは発信がしにくい。有機栽培も様々な栽培方法があるので、消費者側からの確に得られる情報ではないところが課題だと考えている。</p>
栗生田会長	<p>消費者と生産者の距離が近ければ近いほど、その辺の合意ができやすいと思うので、この点も、生活者としての目線で一緒に地域を育てていくことができると思う。</p>
岩淵委員	<p>資料P10の主食、主菜、副菜をそろえて食べる人が親世代に少ないというのを見て、炭水化物ダイエットというのが流行っていて親御さんが主食を食べないのが、子どもにも影響しているのかと思う。炭水化物ダイエットは良くないというのを正しい知識として伝えていってはどうかと思う。フレイルなどもあるが、偏った食べ方は本当に良くない。</p>
大泉主査	<p>栄養相談をしても、主食を抜いている方が大勢いる。テレビや雑誌の情報を鵜呑みにして真似してしまう方も多いが、誤った情報を正していくというのも我々の務めだと思うので、様々な事業の中で正しい食事について伝えていきたい。</p>
落合副会長	<p>先ほど塩分のパンフレットについての話があったが、普段これを使って指導している立場から市民の皆さんの反応をお話すると、三条市の現状をお伝えした時にドキッとされる方が多いと感じている。そこから市民の食生活の特徴を交えて、気を付けて行きましようと思えると話が入りやすいと思う。</p>

大泉主査	塩分のパンフレットについては、裏面に減塩やスマートミールのマークを掲載して周知している。先ほど紙で周知していくと申し上げたが、実際はそれ以外にも三条市のSNSやHPなど、デジタルも使って若い方に情報発信していきたいと考えているので協力をお願いしたい。
栗生田会長	このように一地方自治体が食事について踏み込んで住民の健康づくりに取り組んでいるところは全国的にも少ないと思うが、その点はもっと胸を張って声を大にしていってもよいと思うがどうか。
大泉主査	三条市の減塩の取組につきましては、色々な場所で講演をしたり、少し前に厚労省の健康寿命延ばそうアワードにて賞をいただいたりした経緯がある。減塩によるまちづくりが、他に例を見ないということで色々なところで取り上げていただいているので、今後も啓発をしたりHPに掲載したりしながら進めていきたい。
栗生田会長	そこに住んでいるとそれが当たり前になってしまう人が多いと思うので、取り組んでいることがすごいことだと声を大にして活動をしていただけると良いと思う。

(5) その他（小林健康づくり課長）

次回の審議会だが、本日の御意見を踏まえて作成する本文案について御審議いただきたいと考えている。日程については、会長と協議の上、年明けの1月23日火曜日の午後1時30分からを予定している。早急に委員の皆様へ御案内する。

6 閉 会 午後2時55分